



学力向上セミナー | レポート

2026.5.14

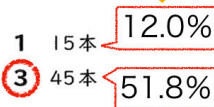


←[当日資料](#) (クリックして見ることもできます)

令和7年度標準学力検査の結果の小問分析を踏まえた授業改善の方法

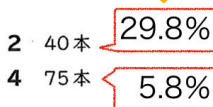
つまずきの原因分析

計算の途中で思考を終えた。全体の比の和 $3 + 5 = 8$ で全体数を割り、比の「1」あたりの量を出したところで満足した。



つまずきの原因分析

「120を3で割る」という単純な操作で終了。全体と部分の関係が理解できていなかった。



分析対象問題

(3) あたりとはずれの本数の比が3:5になるようにくじをつくりまします。全部のくじの数を120本にするとき、あたりは何本になりますか。答えは1~4から1つ選んで、その番号を書きまします。

つまずきの原因分析

対象をすり替えた。計算の手順はよいが、最後に「はずれの数(比の5)」をかけてしまった。



分析結果を
授業改善に生かす!

令和8年5月12日「釧路新聞」

この日は37人の教職員が出席。市教委の佐藤義人指導主事が講師となり、算数の模擬授業を行った。授業改善で「不得意な子は、式と図のつながりが分からないことが多い。大人の思考では理解

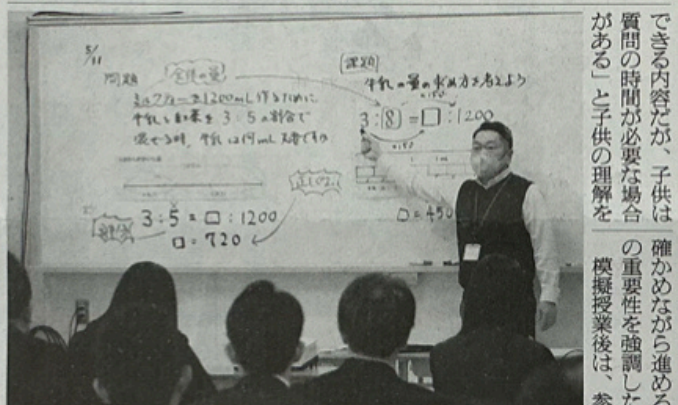
授業改善し学力向上

釧路市教委 小中教職員が意見交換

釧路市教育委員会は11日、釧路市立桜が丘中学校で「2026年度学力向上セミナー」を開いた。義務教育学校を含む市内小中学校の教職員が

集まり、今後の授業改善などについて意見交換した。このセミナーは、2025年度標準学力検査の結果を基に、子供たちの学力状況を把握し、今後の授業改善や児童の学力向上を目的に、年3回ほど実施している。

この日は37人の教職員が出席。市教委の佐藤義人指導主事が講師となり、算数の模擬授業を行った。授業改善で「不得意な子は、式と図のつながりが分からないことが多い。大人の思考では理解

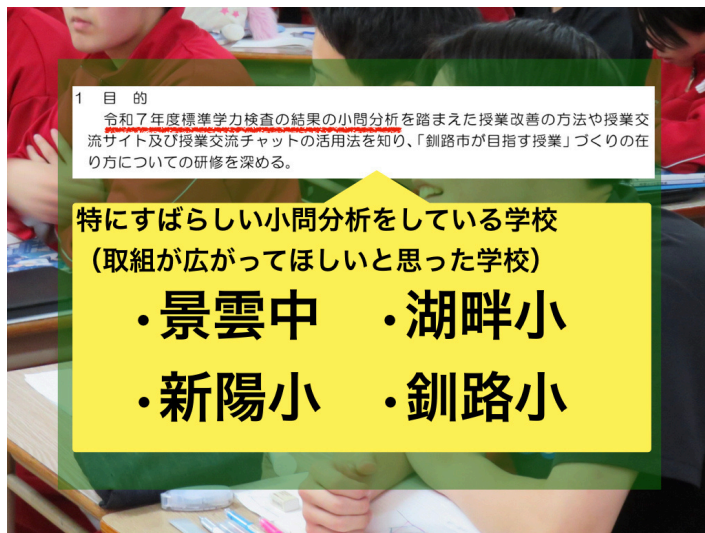


授業改善について語る佐藤指導主事

できる内容だが、子供は質問の時間が必要な場合がある」と子供を理解を確かめながら進める授業の重要性を強調した。模擬授業後は、参加者が意見を交わし授業改善に向けた課題や取り組みを共有した。釧路市立阿寒小学校の四宮和宏さん(39)は「問題文などの情報が式と図に結びついていないのか、子供たちが理解したかどうかを見取りながら授業を進めていきたい。まずは今回の内容を持ち帰り、学校で情報を共有したい」と話していた。

また市教委は、今年度から市内小中学校の教職員らが情報共有できる「授業交流サイト&チャット」を開設し、学年や教科ごとに分けた教材や授業方法などの情報交換が可能になったと報告した。

(長谷紅瑠美)



1 目的

令和7年度標準学力検査の結果の小問分析を踏まえた授業改善の方法や授業交流サイト及び授業交流チャットの活用法を知り、「釧路市が目指す授業」づくりの在り方についての研修を深める。

特にすばらしい小問分析をしている学校
(取組が広がってほしいと思った学校)

- ・景雲中
- ・湖畔小
- ・新陽小
- ・釧路小

小問分析モデル (クリックして見るができます)

- ・[景雲中作成小問分析](#)
- ・[湖畔小作成小問分析](#)
- ・[新陽小作成小問分析](#)
- ・[釧路小作成小問分析](#)



本セミナーでは、小問分析を生かした授業改善の具体を佐藤義人指導主事による模擬授業により体験しました。

参加者アンケートの結果からも「小問分析を通して子供の誤答の原因を探り、それを具体的な授業改善に生かす方法を学ぶことができた」「小問分析の手法や結果を自校の研修等で共有し、教員間の共通認識を図りながら、学校全体で組織的な授業改善につなげていきたい」など、多くの先生方から好評を得ました。

授業改善を進めるときに一番初めに行うべきことは、「子供の実態把握」と考えます。各種調査やテストの「問題」に対して、子供がどのような反応をしたのか見取り、具体的な誤答傾向に対応した教師の働きかけを授業に位置付けることこそ、日常化したい授業改善です。